

夏号 みどり通信

発行 21世紀記念公園 麓山の杜管理事務所
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17
TEL 924-2194 FAX 924-2195

◆みどりの教室◆ …参加費 無料

□エコ教室「テラリウム」

・・・ガラスの器に観葉植物を植え管理も簡単・・・

日時：7月23日（日）10:00～12:00

場所：とんがりふれあい館ホール

定員：15名（7/9～7/19予約受付）

～緑は、地球に優しい環境をつくる講義もあります～

◆みどり講習会◆

7月と8月のみどり講習会は、残念ながら休講です。

次回は、9月24日（日）です。

「雑草と除草剤について」の講習会を行いますので、お楽しみに！



My ガーデニング …季節のワンポイントアドバイス

【水やり】

今年は、春先からの降水量が少なく乾燥している状態が続いています。梅雨入りの時期も平年より遅れ、今後の降水量がとても気になります。

自然をコントロールすることはできないので、乾燥したときには水やりをします。特に今年植え替えた場合、根が浅く張っている（ツツジ類）植物や落葉樹などの乾燥に弱い植物は、こまめに水やりをします。

特に夏を越すまでは、土の乾き具合や葉の状態を観察して、朝のうちに根元と樹冠全体に水やりをするのがベストです。乾燥具合により、朝晩の2回水やりをします。日中の暑い時間帯は、水がお湯になって植物にダメージを与えるので、涼しい時間帯に水やりをします。

乾燥防止のために、腐葉土などで土の表面を覆うことも効果があります。

自然の雨とは違い、水やりの場合は思ったほど土中深くまでは染み通っていかないため、水鉢（根の周りを土で堤をつくる）を設けて水が根に届くような状態にします。肥料はなくても枯れませんが、水がなくてはかかれてしまいますので、根に届くように水をたっぷりあげます。

【剪定】

この時期に剪定作業をしているところを多く見かけます。ただし、この暑い時期の強剪定は樹木を弱らせ枯らしてしまうこともあります。それは、葉や枝を切り落とすことによって内側まで日光が届き幹焼けをおこすなどからです。

開花後にアジサイは次の芽が伸びだす葉の所まで切り戻します。サツキツツジなどは刈込剪定を早めに済ませます。

常緑広葉樹は、剪定が可能な時期ですが今秋から咲き出す花木に花芽が出来始めているので、強剪定すると花が少なくなります。剪定する場合は、内側の弱っている枝や外側の強くとびぬけている枝を切る程度が無難です。

生垣を含めたツゲやキャラボクなどは、梅雨明けする前に刈込剪定を済ませます。

落葉樹は、適期ではないので弱めの剪定にします。

マツ類は、5月初めに新芽を摘みますがこれからの場合はなるべく早めに済ませ、古葉は下にぶら下がっているのを取り除く程度にします。

いずれの樹木も、剪定後は樹冠全体に水をかけて日焼けするのを防ぎます。

【病気】 この時期に症状がみられるものです。
 (ハナミズキ・モミジ)・・・うどんこ病
 (バラ)・・・・・・・・・・・・黒星病
 (カナメモチ・ジンショウゲ)・・・ごま色斑点病
 (サツキ・ツツジ・サザンカ)・・・モチ病
 病気は、発生する前に予防薬として殺菌剤を散布します。

【害虫】 この時期に症状がみられるものです。
 (マツノマダラカミキリ)
 (マツノサイセンチュウ)・・・マツ類
 上記の害虫は、マツ枯れの原因となり剪定した切り口からのマツヤニの出かたで判断でき、すぐにマツヤニが出てくる場合は、健全に近いと判断しません。

(カミキリムシ)・・・カエデ類
 枯らしてしまうこともあり、退治が困難です。
 (アブラムシ)・・・バラ科の植物、ヤマボウシ
 サザンカ、ムクゲなど
 多くの樹種にアブラムシが発生し、排泄物でべたつきがあり、濡れた状態になっています。その後すす病が発生します。

(カイガラムシ)・・・サルスベリ、マツなど
 心化直後なら退治しやすいのですが、時期を逸すると難しくなります。
 (ケムシ類)
 春先から発生しています。チャドクガなどの毒を持っている場合もあり、注意が必要です。また、抜け殻でもかゆみが生じるので厄介です。発生初期に速効性の薬剤散布が適しています。

殺虫剤は、予防効果が少ないので発生初期に殺虫剤を散布します。
 病気の対応は発症前に、害虫は発生初期に対応して広がりを防ぎます。



【肥料】
 庭植えの多くの樹種に、この時期に肥料は施しません。あげることによって、逆に弱らせてしまうことがあります。ただし、サツキツツジなどは、開花後にお礼肥として速効性肥料をあげます。

【植替え】
 この時期は、暑さで弱ってしまうので適期ではありません。常緑樹は秋の彼岸頃まで待ち、落葉樹は11月まで待って植え替えをします。

【夏越し】
 この時期の高温・少雨による乾燥などで、植物を取り巻く環境は、とても厳しいです。植物は、自分で動くことはできないので、無事夏を越して次の花芽が生長し紅葉が楽しめるように、次のように手助けします。

(鉢植えの場合)
 陽当たり、風通しを考えて置き場を移します。
 (庭植えの場合)
 水やりやマルチングで乾燥を防ぎ、軽剪定で風通し良くします。

【雑草退治】
 長期にわたり効果が持続し、非選択性で根からの吸収移行型の除草剤があります。この薬剤は、非選択性なので、すべての植物にも効果があります。
 大事に育てている植物を枯らしてしまうこともありますので、注意が必要です。
 庭の場合は、なるべく除草剤の使用を控え、どうしても使用する場合は、接触吸収移行型の除草剤を使用します。

♪みどりのつばやき♪

園内の花壇も夏の装いになりました。
 春とは違う花々をお楽しみください♪

